

公園放射線 MAP 5

2015/3-7
深谷
寄居
美里
本庄
神川
上里

頁	市町	測定公園	空間線量	測定日	頁	市町	測定公園	空間線量	測定日
2	深谷市	農林公園	0.052	3/29	8	本庄市	若泉公園	0.053	6/14
2		サングリーンパーク	0.049	3/29	8		ふるさとフラワーパーク	0.046	6/14
3		パティオ	0.047	3/31	9		本庄総合公園	0.057	5/6
3		緑の王国	0.045	4/25	10		城下公園	0.049	6/14
4		ピクチャー・わんぱくランド	0.057	4/26	10		四季の里第一公園	0.044	7/11
5		上柴中央公園	0.052	6/20	10		四季の里第二公園	0.044	7/11
5		花園ひだまり公園	0.053	5/24	10		ポニー公園	0.046	7/11
5		青淵公園	0.060	5/24	10		向河原公園	0.058	7/11
5		城址公園	0.058	6/20	10		都島アニメーターゾーン	0.056	7/11
5		スマイルパーク	0.046	6/20	11		児玉児童公園	0.058	5/3
5		ブリッジパーク	0.055	6/20	11		児玉ふるさとの森公園	0.059	6/7
5		岡部歴史公園	0.046	6/22	12	美里町	身馴川公園	0.050	5/5
5		岡部中央公園	0.049	6/7	12		久松駅前児童公園	0.061	5/5
6	寄居町	三ヶ山緑地公園	0.066	5/10	13	上里町	忍保パブリック公園	0.060	5/5
6		親水公園	0.073	5/10	13		長久保公園	0.053	5/5
7		常木公園	0.073	5/10	14	神川町	城峰公園	0.056	5/3
7		天沼公園	0.058	5/10	14		神流川水辺公園	0.055	5/3
7		桜沢公園	0.055	5/10	15		神川元気プラザ	0.042	5/3
7		あまがすはら公園	0.041	5/10					

空間線量は5cm高測定の移動平均、単位は $\mu\text{Sv/h}$



HSF市民測定所・深谷について

子どもたちを放射線から守りたいと願う市民グループによって、2013年秋に設立されました。高性能なGPS連動型放射線測定器（HSF）を用いて、埼玉県の子どもの集まる場所を中心に、空間線量を測定し、これを見える形で公表します。

▶公開ホームページ：<http://hsfnet.jimdo.com/>

◆発行：HFS市民測定所・深谷

◆連絡先：電話 090-9829-8558 〈小泉〉

◆メール：hfs@kzmqj.sakura.ne.jp

◆配布：3・11 市民ネット深谷

◆ホームページ：<http://fukaya311.jimdo.com/>



HSF 放射線見える化プロジェクト埼玉

《子どもの遊び場は安全レベル》 ※数値の単位は、毎時マイクロシーベルト ($\mu\text{Sv/h}$)



園内の空間線量は深谷市の他の公園同様、低めの値です。園内の遊歩道は舗装道路が多く、その分平均線量が隣の川本サングリーンパークの0.049 $\mu\text{Sv/h}$ より高くなっていますが、芝生地や土の部分の大半は0.04 $\mu\text{Sv/h}$

台でした。木材文化館(写真1)と農村伝統継承館(写真2)は、ともに雨樋のない屋根で、軒下の線量が0.1 $\mu\text{Sv/h}$ を超えました。

子どもの遊び場、芝生地はおおむね0.05 $\mu\text{Sv/h}$ 以下で安心できる公園です。なお、サングリーンパークは、除草剤や農薬は一切使っていないそうです。



1 木材文化館 2 農村伝統継承館 3 農林公園 芝生広場中央 4 サングリーンパークさくら鉄道駅前

測定データ 日時：2015年3月29日(土) 15時40分～16時25分 天気：曇り 南東の風1m
方法：移動測定=地上5cm高、定点測定(60秒間の平均)=50cm高、5cm高

$\mu\text{Sv/h}$ という単位について 一般に空間線量は $\mu\text{Sv/h}$ (マイクロシーベルト/時)、食品や土壌は Bq/kg (ベクレル/キログラム)が用いられます。空間線量の除染基準は0.23 $\mu\text{Sv/h}$ 、食品は100 Bq/kg 以下が基準。つまりこれ以上の数値は政府お墨付きの「高い」放射線量です。原発事故から4年が過ぎて、この基準を緩和しようという動きが現政権にあります。私たちは強く反対しています。

《パティオ・緑の王国も安全レベル でも駐車場に注意したい》

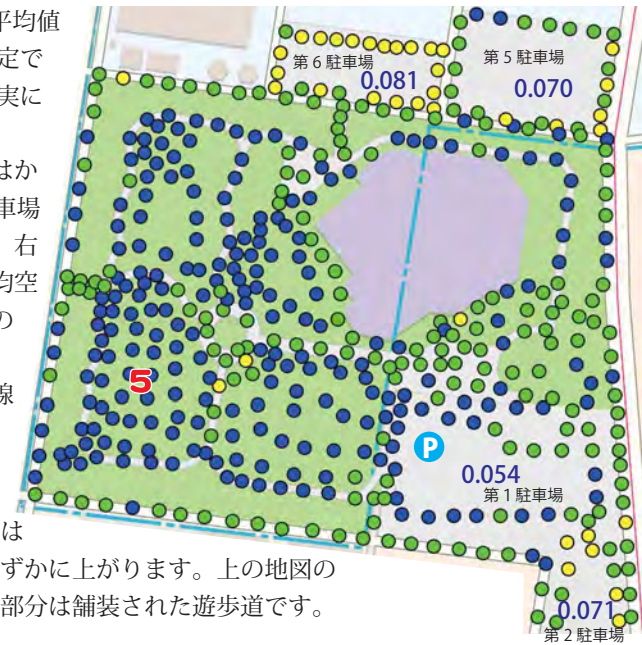
1年半前の50cm高での測定の平均値は0.048 $\mu\text{Sv/h}$ 、今回は5cm高測定で0.047 $\mu\text{Sv/h}$ (駐車場を除く)、着実に空間線量は下がっています。

第1駐車場を除く、他の駐車場はかなり高い線量でした。特に第6駐車場は子連れの場合、注意を要します。右上の地図にそれぞれの駐車場、平均空間線量を表示しました。逆に園内の芝生の上はクールスポット並の線量でした。一般に舗装部分の空間線



5 パティオ 遊具広場中央(芝生)

量はわずかに上がります。上の地図の●部分は舗装された遊歩道です。



緑の王国

移動測定平均 0.045 $\mu\text{Sv/h}$



に関しては安心スポットだと思います。

緑の王国は今回が初めての測定。測定時は小さな子どもは見かけませんでした。子供向けの昆虫の森にはツリーハウスもありましたが、あまり利用されていないようです。園内はどこを歩いても低線量で心配な場所はありません。園全体が畑みたいなのなのかもしれません。



6 ハナミズキ通り脇(土)

測定データ 日時：パティオ 2015年3月31日 10時40分～12時40分 天気：晴れ 南東の風1m 5cm高
緑の王国 2015年4月25日 13時20分～16時10分 天気：晴れ 南東の風3～4m 5cm高

放射能とは 本来は放射線を放出する能力のことです。しかし、私たち一般人は「放射能を測る」などと広い意味で使います。この冊子の数値は、ガンマー線を出すセシウム134とセシウム137という放射性物質の測定値です。ストロンチウムやトリチウムも恐ろしい放射性物質ですが、これは専門機関でないと測定できません。2014年から「いわき市民測定所たちね」が測定を開始しました。

《ホットスポット発見→深谷市は迅速に除染→安全になった》



仙元山公園は2度目の測定です。今回は前回発見できなかったホットスポットを2ヶ所で見つけ、深谷市に通報しました。深谷市は、素早い対応でこれをすぐに除染しました。

ビックタートルの周囲は、石やレンガ、アスファルトで舗装が多く、自然放射線の影響でやや高い空間線量となりました。また、舗装面の隅や緑の溜まり土からは、除染基準以下ですが、セシウム由来のやや高い線量が計測されました。

わんぱくランドの遊び場は低線量です。ホットスポットは子どもがあまり来ない南東の広場でしたが、どんぐりを拾ったという話も聞きましたので、注意してください。



1 ビックタートル正面歩道 (たまり土) 2 ふわふわドーム砂場 (砂)

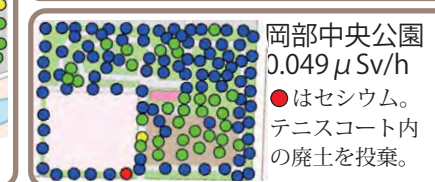
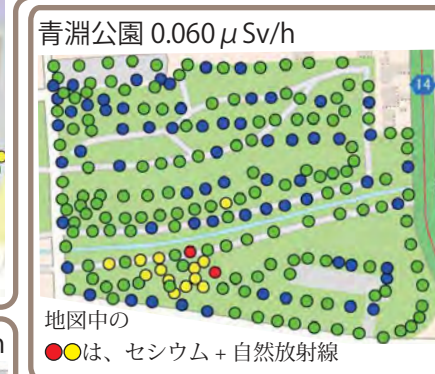
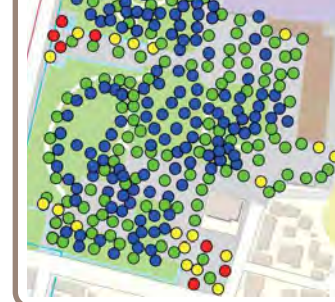
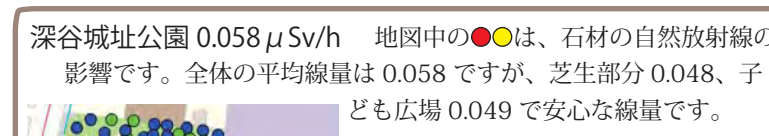
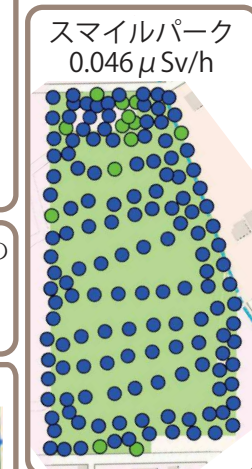


3 除染後 2015/5/3 に再測定

測定データ 日時：2015年4月26日(日) 13時30分～17時10分 天気：晴れ 南東の風2m～4m
方法：移動測定=地上5cm高、定点測定(60秒間の平均)=50cm高、5cm高

事故で放出された放射性物質は？ ヨウ素、セシウム、ストロンチウム、プルトニウムなど300種以上と言われます。今後とも私たちが注意しなくてはならないのは、セシウム137(半減期30年)とストロンチウム90(半減期28.8年)です。セシウム137とセシウム134(半減期2.1年)はほぼ同量が放出されましたが、2015年7月現在、セシウム合計で3.11当時の57%くらいに減っています。

《上柴中央公園の子ども広場は要注意・城址公園は自然放射線が大きい》



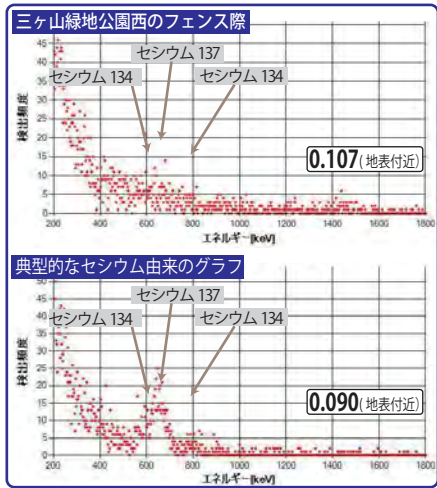
測定データ 日時：2015年5月24日～6月22日
方法：移動測定=地上5cm高、定点測定(60秒間の平均)=50cm高、5cm高

人工放射能と自然放射能 福島第一原発事故で放出されたのは人工放射能、自然界にもともと存在していたものが自然放射能です。みかげ石等の石材・レンガ・砕石や砂・コンクリートの上で計測される高い放射線はだいたい自然放射線と考えられます。粘土質の土、芝生の上の場合はセシウムの濃縮の可能性が高いようです。HSFの測定では、スペクトル表示モードで簡易的にセシウムの有無がわかります。

《 ●●は自然放射線の影響のようだ！ 》

三ヶ山緑地公園と親水公園は、彩の国資源循環工場に付属する公園施設で、ともに埼玉県管轄の公園です。空間放射線量が、埼玉北部の公園に比べ、やや高めですが、これは土壌の自然放射線が影響しているためです。

次の2つのグラフは、HSFの簡易核種分析グラフです。上は三ヶ山緑地公園ですが、セシウム137のピークが見えませんが、セシウム由来であれば、



下グラフのようにセシウム137のピークがしっかり現れます。

三ヶ山周辺は、自然放射線によって周囲よりも空間線量が平均で0.02~0.03 $\mu\text{Sv/h}$ 上昇していると推測されます。山を削るような大規模な土木工事によって、地下の自然放射性物質が地表に出てきたものかも知れません。



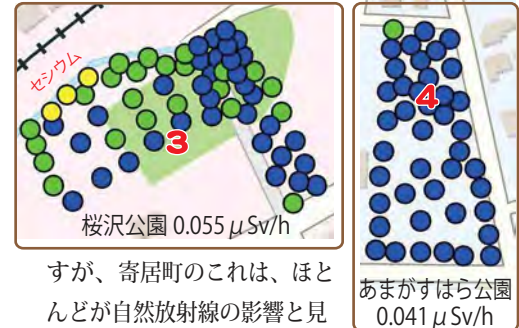
1 三ヶ山緑地公園西のフェンス際 2 三ヶ山緑地公園展望台下 (芝) 3 親水公園 東屋隣の草原

測定データ 日時：2015年5月10日 14:30~17:00 / 天気：晴れ 南西の風3~6m
方法：移動測定=地上5cm高、定点測定(60秒間の平均)=50cm高、5cm高

《 どの公園もセシウムの空間線量は低い 》

この日、三ヶ山以外に4ヶ所の公園を測定しました。

常木公園は、町の定期測定で最も高い空間放射線量の公園で、公表値は0.090 $\mu\text{Sv/h}$ 以上です。地元の方のリクエストで測定に赴きましたが、園内はどこで測っても0.07~0.08 $\mu\text{Sv/h}$ 。敷地全体にやや黒っぽい砂が撒かれており、空間線量の高さは、おそらくこの砂に含まれる自然放射線の影響だと思われます。



天沼公園は西側に常木公園と同じような砂が撒かれていて、そこは若干高い線量でしたが、全体的には埼玉北部の平均的な線量でした。特に水辺の遊び場は石が敷き詰められているにもかかわらず、とても低い線量でした。

桜沢公園は、北側フェンス外の遊歩道部分の線量が高めでしたが、フェンスの内側は問題ありません。

あまがすはら公園は今回の測定の中では、最も線量の低い公園。グラウンドの砂からの自然放射線の影響はありませんでした。

●の多い公園は低線量の公園です。●●の順に空間線量の高い公園ということになりま

すが、寄居町のこれは、ほとんどが自然放射線の影響と見られ、福島第1原発事故で放出されたセシウムの濃縮が疑われる場所は、あまりありませんでした。

自治体の定期的な測定で、常に高い数値の場所は、土壌分析をすると、高い理由がはっきりすると見えます。



3 桜沢公園 鉄棒の下 (砂)



1 常木公園 桜の木の下 (砂) 2 天沼公園 川岸石敷き (緑の石) 4 あまがすはら公園 スプリング遊具

測定データ 日時：2015年5月10日 11:00~14:20 / 天気：晴れ 南西の風3~6m
方法：移動測定=地上5cm高、定点測定(60秒間の平均)=50cm高、5cm高

自然放射線なら安全か？ 自然界には、もともと放射性物質が存在します。野菜や果物、豆類に多く含まれるカリウム40が有名ですが、みかげ石や素焼きレンガの一部からはウラン由来の放射線が測定されます。京大助教の今西哲二さんは「自然放射線は危ないものであり、それに加えて人工放射線も浴びていると考えるのが妥当」と述べています。

ホットスポットとクールスポット 0.23 $\mu\text{Sv/h}$ 以上は、自治体の一般的な除染基準ですから、これは公認ホットスポットです。(秩父市や加須市は、局所的な汚染だと地表1 $\mu\text{Sv/h}$ 以上) 3.11 福島第一原発事故以前は0.03~0.04 $\mu\text{Sv/h}$ だったそうですので、0.04 $\mu\text{Sv/h}$ 以下の場所ならクールスポットと呼べると思います。埼玉北部の多くの森や雑木林の土の道は、だいたいこの値になります。

《全体的に県北の平均レベルの公園》

ここは、段丘崖と元小山川の間が細長く公園となっていて、それぞれ用途で区切られています。第一若泉公園の入り口（五州園側）から元小山川の狭い遊歩道を進みせせらぎ広場を折り返すコースで測定しました。良く整備されていることもあってか、高い値を示すところはありませんでした。しかし、せせらぎ広場では花崗岩の水路の水が流れていて、子どもたちが大はしゃぎで水遊びをしています。

1 幼児用すべり台横（土）
0.052(50cm高) / 0.056(地表付近)

2 動物オブジェ砂場（砂）
0.041(50cm高) / 0.042(地表付近)

3 石川三四郎翁顕彰碑前（土）
0.047(50cm高) / 0.049(地表付近)

ました。こういった用途に花崗岩は使ってほしくないものです。(吉田)

ふるさとフラワーパーク 移動測定平均 0.046 μ Sv/h

若泉運動公園の西端に位置します。花と芝生広場の公園で、子供向けの遊具はありませんが、きれいに整備されています。公園を巡るレンガの遊歩道全体の平均線量は0.053 μ Sv/hですが、芝生と築山部分の平均線量は0.039 μ Sv/hです。この差は自然放射線によるものと考えられます。ともかく、ここは安心して子どもを遊ばせられる線量だと思われれます。

4 東の芝生広場中央（芝）
0.035(50cm高) / 0.035(地表付近)

測定データ 日時：2015年6月14日 10:10～12:00 曇り晴れ 無風 / 7月11日 13:00～13:30 晴れ 東風2m
方法：移動測定＝地上5cm高、定点測定(60秒間の平均)＝50cm高、5cm高

ホットスポットを発見したら 公園などで0.23 μ Sv/h以上の場所を見つけたら、すぐに自治体に通報します。通常は0.23 μ Sv/h以上なら除染してくれます。秩父市や加須市は1 μ Sv/h以上ですが、多くの自治体は地表付近0.23 μ Sv/hの線量で除染します。自宅で発見した場合、理不尽な話ですが、自己責任・自己負担で除染するしかないようです。

《多種多様な遊具を配置した「わんぱく」は安全レベル

市営の公園としては大変広く施設も充実しています。清掃等も行き届いています。シルクドーム、市民球場のほか、ドッグラン、バーベキューの森、梅林、芝生広場、わんぱく、運動広場などを測定しましたが、空間線量はどこも心配される数値ではありませんでした。しかし、メインストリートに煉瓦タイルの敷石や花崗岩のオブジェなど多用されていて、石からの放射線は高い値を示しました。一部ですが原発事故由来のセシウムの濃縮が確認された箇所もありました。(吉田)

A 0.040
B 0.043
C 0.046
D 0.044

石材やレンガ・花崗岩などに含まれる自然放射線の影響で空間線量が高くなっている。

1 子ども遊具広場（芝）
0.037(50cm高) / 0.038(地表付近)

2 芝生広場（芝）
0.039(50cm高) / 0.041(地表付近)

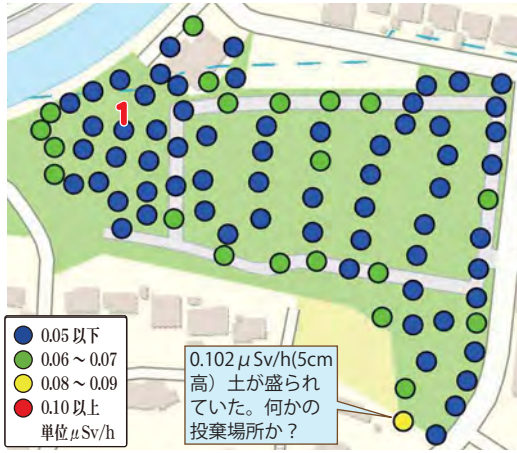
3 トンネルの中（コンクリート）
0.101(50cm高) / 0.091(地表付近)

4 道路脇溜まり土（土）
0.075(50cm高) / 0.098(地表付近)

測定データ 日時：2015年5月6日(水) 9:30～12:00 晴れ 微風
方法：移動測定＝地上5cm高、定点測定(60秒間の平均)＝50cm高、5cm高

年間1mSv 日本の法律が定めた年間被ばく量の限度で、世界の基準もこれです。日本政府はあれこれ数字を操作して、0.23 μ Sv/h以下なら大丈夫としていますが、単純に1mSv÷365日÷24時間＝0.114 μ Sv/hと計算し、これ以上の場所を「危険」と当会は判断します。同じ被ばく量でも、子どもは大人の10倍も100倍も大きなダメージを受けます。

《全体的に低レベルの空間線量ですが・・・》



段丘崖、川、住宅地に挟まれた古い公園です。駐車場はありませんが、軽度な運動やウォーキングにちょうどいいでしょう。高齢者の利用が多いようです。全体の空間線量は低く安心できるレベルです。しかし、東南の隅で、何かを埋めたと思われる盛り土があり、放射線量は高い値を記録しました。過酷事故から4年が経過して空間線量は少しずつ下がっていますが、一方では濃縮も進んでいます。パパさんママさん注意しましょう！（吉田）



1 タコのスベリ台 (砂)

《児玉地区 埼玉北部の平均的空間線量だった》

児玉地区では唯一の児童公園のようです。子ども広場はそれなりに整備もされていましたが、グラウンドのほうは、あまり利用されている様子もなく、草が伸びていました。空間線量に関しては、特に心配になる場所もありません。南側のグラウンドは、草も伸びていて、見た目危ない感じもしますが、今回の測定では問題のある線量は計測されませんでした。



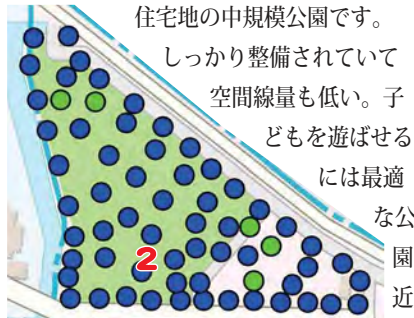
1 スベリ台の前 (芝生・土)



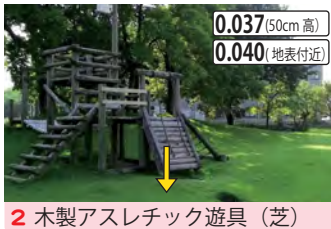
2 枯葉の集積場 (枯葉)

四季の里第一公園

移動測定平均 0.044 $\mu\text{Sv/h}$



住宅地の中規模公園です。しっかり整備されていて空間線量も低い。子どもを遊ばせるには最適な公園です。残念なことに駐車場がなく、近所の住人だけが利用するようです。



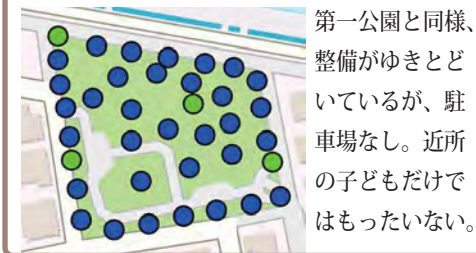
2 木製アスレチック遊具 (芝園)

向河原公園 0.058 $\mu\text{Sv/h}$



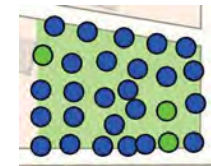
馬の放牧が見られる、本庄最北端の公園

四季の里第二公園 0.044 $\mu\text{Sv/h}$



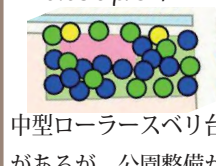
第一公園と同様、整備がゆきとどいているが、駐車場なし。近所の子どもだけではもったいない。

ポニー公園 0.046 $\mu\text{Sv/h}$



安全・安心な公園

都島アメニティーゾーン 0.056 $\mu\text{Sv/h}$



中型ローラーすべり台があるが、公園整備がイマイチ。

児玉ふるさとの森公園

移動測定平均 0.059 $\mu\text{Sv/h}$



本庄市の南西部、間瀬湖近くの森の公園です。野球場はしっかり整備されていますが、それ以外はイマイチで、特に子ども広場は利用された様子もなく、朽ち果てています。全体的にみれば、空間線量は、埼玉北部の平均値ですが、子ども広場の入口付近の歩道にセシウムの濃縮が見られました。地形的な問題もありますが、草刈り以外の管理がなされていないことも理由の一つかもしれません。



3 アスレチック遊具 (枯葉・土)



4 駐車場すみ (たまり土)

舗装された遊歩道の縁にたまった土にセシウムの濃縮が見られる

測定データ 城下公園 日時：2015年6月14日 10:00～10:50 天気：曇り 無風
四季の里第一公園、他 日時：2015年7月11日 12:00～16:10 天気：晴れ 東風2～3m

測定データ 児玉児童公園 日時：2015年5月3日 17:10～18:00 天気：晴れ 南の風1～2m
児玉ふるさとの森公園 日時：2015年6月7日 13:00～15:30 天気：晴れ 南東の風3m

雨風で移動するセシウム 現在セシウムは微細な土と結合した状態で風と雨で移動すると言われていています。広いアスファルト舗装の駐車場の隅などで排水の悪い場所では、雨が降るたびに放射線量が高くなる傾向にあります。セシウムは、中央より隅、高い所より低い所、乾燥した所より濡った場所で濃縮され、ホットスポットはそうした場所で見つかります。

土壌検査 土を食品のように検査し、放射線量はBq/kgで示されます。北関東の平均は100Bq/Kg前後だと考えられますが、空間線量には500Bq/kg以上でないと反映せず、5cm高0.05 $\mu\text{Sv/h}$ でも、土壌検査では300Bq/kgという事例もありました。また、同じ場所でも深さによっても値は変化します。その土地の1点だけ測定しても全体はわからないのは空間線量と同じです。

《 良い公園だった！ 放射能も心配なし 》

新しい公園です。掃除も行き届いており、全体的に線量は低く、小さな子どもを安心して遊ばせることのできる公園です。また、園内には桜の木が植えてあり、春はお花見でにぎわったことでしょう。

写真1 こどもが一番遊ぶ場所、遊具はそれなりに充実しています。ここは、線量が低くて安心です。



1 コンビネーション遊具 (土・小砂利)



2 どんぐりの森 (落ち葉・土)



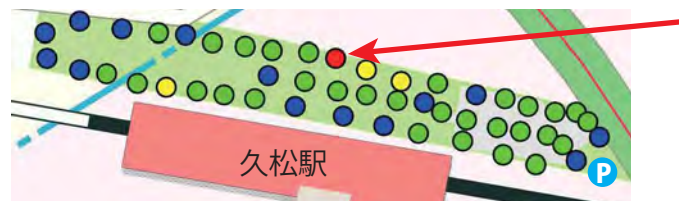
3 芝生広場 (芝生)



写真2 きれいに芝刈りがしてありました。ちょっとしたイベントもできそうな広場です。写真3はどんぐり広場。この地区で小さな子ども用の公園施設はなかなか見つからなかったのですが、ここは穴場かもしれません。放射能に関しては、心配のない公園です。

松久駅前児童公園

駅前なのに、駅から直接入ることはできず、ぐるりと回り、踏み切りを渡って入口です。利用されている様子はありません。2つあるスプリング遊具がちょっと寂しそうです。でも、ちょっと雰囲気



測定データ 日時：2015年5月5日(火) 17時00分～18時30分 天気：曇り晴れ 南西の風1～2m
方法：移動測定=地上5cm高、定点測定(60秒間の平均)=50cm高、5cm高

薪の灰 東北・関東地方の薪の燃焼灰から高い放射能が検出され、環境省も「安全性が確認された場合を除き、庭や畑にまくことなく」と通達を出しています。薪は灰になるとセシウムが200倍に濃縮されます。薪ストーブの薪は2年乾燥させるそうです。2014年の春に捨てた灰が一番危険だったのです。薪ストーブユーザーは必ず灰の検査をするべきです。400Bq/kg以上の灰は、畑に撒けません。

移動測定平均 0.061 $\mu\text{Sv/h}$



● 大木の根元に注意しよう！
のある公園なのです。放射能に関しては、樹の根元に気を付けてください。

《 埼玉県最北部の空間線量は、深谷・熊谷とほぼ同じ 》



長久保公園

移動測定平均 0.053 $\mu\text{Sv/h}$

新幹線の南、本庄市との境の公園です。テニスコートと凝った造りの児童公園があります。新しくはありませんが、大型のアスレチック遊具がありません。移動平均の空間線量は0.053と埼玉北部の平均以下の値ですが、写真の定点測定が示すように、やや高めポイントが点在します。地形の高低で部分的にセシウムが濃縮されたようです。

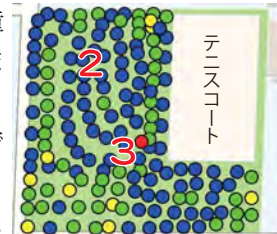
埼玉最北端の測定です。県内の公園の空間線量を測定し公表するとともに、



2 ロープ遊具の下 (土・砂)



3 芝生広場のくぼ地 (草・土)



埼玉全体の汚染状況を知ることも目的の一つです。関東の中で最も福島第一原発事故の影響を受けなかった埼玉北部ですが、現在、熊谷～上里は、ほぼ同じ汚染状況であることがわかりました。

測定データ 日時：2015年5月5日(日) 13時00分～16時10分 天気：晴れ 南西の風1～2m
方法：移動測定=地上5cm高、定点測定(60秒間の平均)=50cm高、5cm高

放射線測定器について エステー社のエアカウンターは半導体式、テラやRADEXはガイカー管式、当会のHSFやホリバ(ラディ)はシンチレーションです。測定の条件にもよりますが、一般にガイカー管式のテラやRADEXは、HSFやホリバの倍くらいの数値を示すことがあります。当会のHSFの値はホリバPA1000よりも1～2割低い値となります。

《 神川町の空間線量は長瀬・皆野と同じで低い 》

かなり狭い山道をくねくねと登った先にある公園です。キャンプ場がメインの施設の様です。全山の大半はアスファルトやブロックタイルで舗装されており、お



1 レストハウス隣 (小砂利と土)



2 わんぱく広場入口 (ブロックレンガ)

しな話ですが、土の上は歩けません。わずかに歩ける土の上は、どれも低線量だと思えますが、アスファルトや石材にじやまされて、思うような測定ができませんでした。

写真1、2の定点測定の値はやや高めですが、自然放射線の影響が大きいです。

神流川水辺公園

移動測定平均 0.055 $\mu\text{Sv/h}$



川原はバーベキューをする大勢の人々です。場所は河原、石の名産地のためか、あちこちに自然石が

多用された公園です。こうした場所では、石からの自然放射線の影響を受けて、福島第一原発事故由来のセシウムの測定が難しくなります。とはいえ、空間線量が特に高い場所もありませんので、心配のない公園と判断します。



1 公園芝生地



2 子ども遊具 (土・砂)

測定データ 日時：2015年5月3日(日) 13時40分～15時50分 天気：曇り晴れ 南西の風1～2m
方法：移動測定＝地上5cm高、定点測定(60秒間の平均)＝50cm高、5cm高

3.11 市民ネット深谷 2013年7月に誕生した市民グループです。既存の組織とは関係ありません。2011年3月11日に発生した福島第一原発事故に危機感を持つ市民の集まりです。子どもたちを放射能から守り、原発のない社会の実現を目指して活動しています。HSF市民測定所・深谷はこのグループ内の有志によって運営されています。

《 空間線量の低い元気プラザ ここは安全スポット！ 》

元気プラザ管理事務所で入場許可をとり測定をしました。元気プラザは、小川、大滝でも測定していますが、ここ神川の元気プラザがいちばん低い空間線量でした。前ページの城峰公園と神流川水辺公園は、ともに石とアスファルトばかりで、結果の判断が難しい場所でした。しかし、ここでは自然放射線にじゃま



1 炊事場 A 松の隣 (土)

されることなく良い測定ができました。神川町も汚染度の低い地域だという印象を受けました。

測定データ 日時：2015年5月3日(日) 12時10分～13時30分 天気：曇り晴れ 南西の風1～2m

HSF(ホットスポットファインダー)とは

GPS連動のシンチレーション式放射線計です。移動しながら放射線を測定し、その測定値をGPS情報とともに保存します。HSFは、正確な測定値を出すことが、環境省福島環境再生事務所の実証試験報告書で証明されました。また、グラフ表示によって、計測した値がセシウムから自然放射線かを簡易的に判断できます。



数値をどう判断するか？ 放射能はどんなに微量でも危険

- 放射能は、どんな微量であっても「避けられるものは、できるだけ避ける」が原則です。
- 0.230 $\mu\text{Sv/h}$ 国の除染基準。秩父市・加須市などの局所的除染基準は1 $\mu\text{Sv/h}$ 。
- 0.114 $\mu\text{Sv/h}$ 国際放射線防護委員会の一般人年間被ばく限度 1mSv の1時間あたりの値。
- 0.056 $\mu\text{Sv/h}$ 熊谷市のモニタリングポストの2015年6月の月平均は0.056 $\mu\text{Sv/h}$ です。
- 0.035 $\mu\text{Sv/h}$ 福島第一原発事故前の埼玉は0.035 $\mu\text{Sv/h}$ だったというデータがあります。

支援のお願い

HSF 市民測定所・深谷は、既成の団体とは一切関係なく、市民ボランティアと市民からの寄付で運営しております。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

- ゆうちよ銀行：普通 10390-82989741 口座名：HSF市民測定所・深谷(イイチエエフミンシツケイジヨウカキ)
- 《 他行からは 店名〇三八(せ) 〇七〇〇 普通 8298974 》